

Saitama University



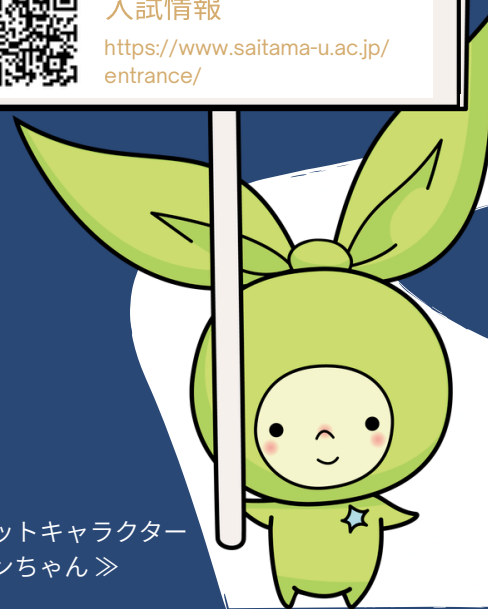
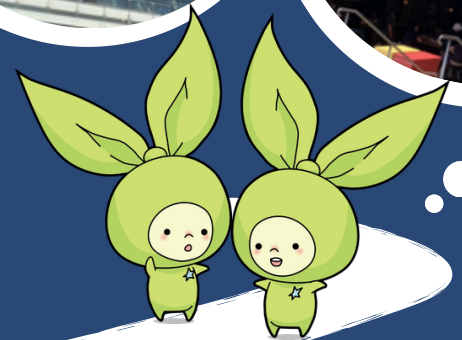
ホームページはこちら

<https://www.saitama-u.ac.jp>



入試情報

<https://www.saitama-u.ac.jp/entrance/>



学生たちの声
(留学・交流編)

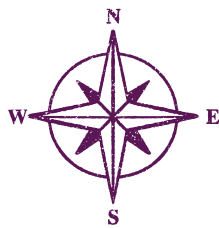
埼玉大学マスコットキャラクター
《メリンちゃん》



先輩たちの 体験談を紹介！

《インタビュー項目》

- ①参加を考えた理由
- ②参加して得られたメリット
- ③参加経験が、その後の学生生活に与えた影響



留学プログラム

交換留学

埼玉大学の協定校に半年又は1年間留学できるプログラム

語学研修

夏季／春季の長期休暇中に協定校で実施する短期語学研修プログラム

GYP

地球共通の課題を正しく認識し、社会的・環境的に責任ある行動がとれる「グローバル市民」を育成する特別教育プログラム

Global Youth プログラム

GTP

社会科学の基礎力・応用力と国際力の2つを育成するために、通常カリキュラム（主に日本語）と追加のプログラム用科目（主に英語）の二層構造を学ぶプログラム

グローバル・タレント・プログラム

留学は特別な人だけのものではなく、誰にでも開かれた成長の機会です。
先輩たちの経験が、あなたの一步を後押しするきっかけになれば幸いです。



交換留学



教育学部 近藤 さくら さん

①参加を考えた理由

高校の頃から漠然と留学に興味があったこと、そして大学に入学後、様々な視点から教育について学ぶ中で、日本とは異なる教育や価値観に触れたいと考えるようになったことがきっかけです。特に幸福度が高い国として知られる北欧の教育制度に関心を持ちました。現地の学校でインターンシップができる点にも魅力を感じ、教員を目指すうえで、海外の教育や文化を実際に体験することで自分の視野を広げたいと思い、デンマークへの留学を決めました。

②参加して得られたメリット

様々な国の人々との出会いを通して、多様な価値観に触れることができたことです。現地では、世界各国から来た留学生の友人や、インターンシップ先の子どもたち、先生方と関わる中で、日本では得られなかった多くの刺激や学びを得ました。言語や文化の違いに戸惑う場面もたくさんありましたが、お互いを尊重する気持ちを忘れずに関わることの重要性を実感するとともに、多様な背景を持つ人々と関わる中で、自分の視野が大きく広がりました。

③参加経験が、その後の学生生活に与えた影響

留学後、自分から積極的に学びに向き合う姿勢がより強くなりました。留学中に会った多様な価値観や経験を思い出しながら、物事を一つの視点だけで捉えるのではなく、様々な立場や背景を踏まえて考え、相手の立場に立って物事を考える意識が強くなりました。こうした経験を通して、将来教員として子どもたち一人ひとりの個性や背景を大切に、それぞれの違いを尊重しながら関わっていきたいという思いもより一層強くなりました。

語学研修



理学部 安齋 穂乃花 さん



①参加を考えた理由

私は以前から、国籍や年齢、性別を問わず多くの人とコミュニケーションをとりたいと考えていました。また、「世界で活躍する生物学者になる」という自身の将来目標を実現するために、英語を「ツール」として流暢に使いこなせるようになることが必要不可欠でした。これらを踏まえたらうで、「ツール」としての英語力の向上と、他国の文化を肌で感じ「多文化理解」を目指すこと、異なる文化的背景を有する人との「出会い」から、「生きた学び」を得ることを目的として、語学研修に参加することを決めました。

②参加して得られたメリット

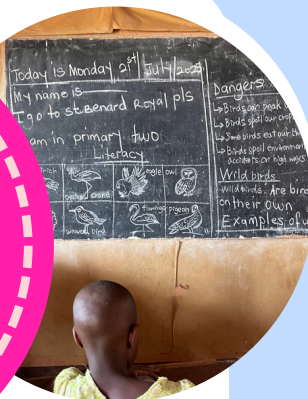
沢山の有意義な発見があったことです。最も衝撃的だったのは、「自文化理解」の重要性への気づきでした。私は「多文化理解」を目指し、学びのアンテナを「外へ」と向けていました。しかし、米国の友人たちに日本について聞かれたとき、私自身が日本について知らなすぎることに気づきました。そのとき、「多文化理解」を実現するうえで、「自文化理解」は「他文化理解」と同じくらい重要なのだと痛感したのです。私は以前に増して、自国に興味を抱くようになりました。また、現地の人との会話から実用的な「生きた英語」を学べたこと、現地友人たちとの「出会い」は私に自信を与えてくれました。

③参加経験が、その後の学生生活に与えた影響

「学ぶ」ことのモチベーションや目的が明確になり、以前より自信をもって日々の学びに向き合えるようになりました。さらに、世界から見た自国や自文化、他文化について「メタ認知」的に考える視点の獲得や「多文化共修」への関心の増加は私をより主体的でアクティブに変えてくれました。語学研修以前よりも、国際交流イベントに積極的に参加できるようになりました。今後は、「世界で活躍できる生物学者」になるための「ツール」となるアカデミックな英語だけでなく、多くの人々との交流を叶える「生きた英語」を習得していくことができるよう、日々邁進していきます！



教養学部
増山 優
さん



①参加を考えた理由

入学ガイダンスの前後に、教養学部から配布された資料を読んだり、GYプログラムのスタッフのお話を聞いたりする中で、このプログラムに応募することを決めました。もともと私は留学や海外研修に興味がありました。そのため、留学と海外インターンシップの両方を経験しなければ修了できないという本プログラムの特徴は、自分の関心や志向に合っていると感じました。

さらに、このプログラムに参加することで、同じように海外や国際的な活動に関心を持つ仲間と出会い、交流できることも大きな魅力だと感じました。

②参加して得られたメリット

一番よかったのは、1年次からお昼休みに開催されるBBセミナーに参加できたことです。留学や海外インターンシップを経験した先輩方や、国際開発分野で活躍されているゲストのお話を聞くことができ、2年次以降の留学やインターンシップ、卒業後の進路について具体的にイメージを膨らませることができました。勉強に疲れた時も、先輩方の経験や挑戦のお話を聞くことでやる気を奮い立たせることができました。また、専用の実習室を利用でき、本やDVDを無料で使えたことや、メンバーと交流できたことも良い思い出です。

③参加経験が、その後の学生生活に与えた影響

さまざまなことに「なぜだろう」と問いを持つようになりました。身の回りで起きていること、今学んでいることについて、以前より深く理解しようとする姿勢が身についたと感じています。

また、実際に海外で生活し働く経験を通して、世界の広さを実感することができました。その結果、変化を恐れずに受け入れる姿勢を持つ一方で、むやみに急いで変化を求めるのではなく、忍耐強く対象に向き合う姿勢も身についたと思います。



経済学部
井上 幸土
さん



①参加を考えた理由

元々私は、グローバル化が加速する社会で活躍できるよう、国際的な視点で経済学や経営学を学びつつ、留学などの国際交流を通じて大学生活を充実させたいと考えていました。そうした中で、英語でのアカデミックな知識やコミュニケーション力を育むことができるGTPに参加することで、個人では不安から一歩踏み出しにくかった「留学」を実現させ、自分自身を成長させたいと考え、参加を決意しました。

②参加して得られたメリット

留学前は、リスクを恐れて何かに挑戦するまでに時間を要することが多々ありました。しかし留学を通して、入念な準備と振り返りを欠かさなければ大きな失敗をすることはそうなく、むしろ挑戦から多くのことを学べるのだと実感し、自分に自信を持てるようになりました。また、日本とは異なる環境において、今後の人生においてもかけがえのない親友と出会うことができ、彼らとの文化交流を通して新たな気づきを多く得ることができました。

③参加経験が、その後の学生生活に与えた影響

交換留学を通して、世界がより身近に感じるようになりました。今後も継続的な国際交流を通じて語学力を向上させ、将来また海外で生活する機会を得たいと強く考えるようになりました。また、留学中、現地での授業に対する学生の積極的な姿勢や、多様で情熱的な志を持った学生の姿に刺激を受けました。帰国した現在、一度きりの人生を改めて見つめ直し、留学前にも増して、生活の質や学問への意識を向上させていきたいと考えています。



経済学部
新谷 美佳
さん



①参加を考えた理由

オーストラリアでの短期留学経験をきっかけに留学生と交流したいと思い、1年次にIntroduction to Japanese Cultureを履修しました。日本人でも知らない文化を学べる充実した授業であったことから、担当の加藤先生にSAとして誘われ参加を決めました。コロナ禍で対面交流が難しい中、韓国人留学生との交流をきっかけに関心が深まり、国際交流館のシェアハウスに入居しました。さらにSU Common Roomのイベント委員としてMATSURIやハロウィン企画を行い、チューターやピアサポーターとしても留学生支援にも関わりました。

②参加して得られたメリット

活動を通して、日本について自分がまだ知らないことが多いと実感しました。留学生が熱心に日本文化を学んでいる姿に刺激を受け、自分自身も理解を深めたいと思うようになりました。また様々な国の学生と交流する中で、食文化や生活習慣の違いを知り、視野が広がりました。多様性についても意識が変わり、相手の背景を尊重した言葉遣いを心掛けるようになりました。何より多くの友人ができたことは大きな財産となっています。

③参加経験が、その後の学生生活に与えた影響

これらの経験は現在の学生生活にも生かされています。授業で海外との比較を考える際には、留学生との会話や交流から得た知識を基に発言やレポートを行っています。留学生にアンケートを取って意見を集めたこともあり、多角的に物事を考える力が身につきました。また寮に住む留学生と食事や外出を共にするなど、日常的な交流も続いており、異文化理解を深めながら学びを広げています。



理工学
研究科
芦澤 昂大
さん

①参加を考えた理由

高校生の頃から大学生になったら留学したいと考えていました。しかし、新型コロナウイルスの流行により、約2年間大学に通うことすらできない状況が続きました。そこで、日本にいながら留学生と関わることで留学の疑似体験を試みようと思い、国際交流イベントやインターンに参加しました。埼玉大学は日本人学生と留学生の交流を積極的に支援しており、イベントのボランティアやインターンは、現在まで約5年間続く私の国際交流活動の出発点となりました。

②参加して得られたメリット

インターンやボランティアを国際交流の土台として活用することで、学外でも留学生の友人と交流する機会が増えました。その中で英語力も高まり、現在では日常生活の7割を英語で過ごしています。また、海外の人々の異なる文化に触れ、それを自分の文化と比較することで視野を広げることができました。自分の可能性の幅も広がり、物事をより深く理解できるようになったと感じています。

③参加経験が、その後の学生生活に与えた影響

国際交流を通じて仲良くなった留学生たちを日本各地へ旅行に連れて行ったり、日本文化と一緒に体験したりする時間はとても有意義なものです。半期が過ぎると彼らも母国に帰る為、別れは寂しいですが、私たちが海外に旅行する際には最高のツアーガイド(友人)となってくれます。私がヨーロッパに留学していた際には、彼らが自分の母国で私を温かくもてなしてくれたことがとても嬉しかったです。